



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT1401S		
科目名	法学概論		
担当教員	上野 幸彦		
対象学年	1年,2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	月 1		
講義室	1310	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	総合基礎		
科目小分類	専門・法学		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1-D 〔市民的素養・市民的教養〕 市民的素養と参加コミュニティに積極的な変化をもたらすために、知識・スキル・価値観・動機を動員することができる。 DP7-C 〔他者理解・倫理観・公共心〕 人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。 DP3-H 〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 DP4-I 〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E1 学識・専門技能(50%) H1 論理的思考(15%) H2 批判的思考(15%) D1 文化的素養・市民的教養(10%) I1 理解・分析と読解(10%)		
教員の実務経験			
成績ターゲット区分	■成績ターゲット：能力開発の目標ステージと対応 1 萌芽期～2 進行情		
科目概要・キーワード	「社会あるところ、法在り」と言われるように、社会を構成するメンバー相互間を規整するために必然的にルールが存在します。このようなルールの総体を法と呼ぶことができ、意識しているかどうかにかかわらず、わたくしたちは法の規整の中で生活を営んでいます。法（ルール）は社会の基本的な統治構造や人びとと相互間の社会関係に関わっているのです。国家および社会について考察するうえで欠かせません。この授業では、国家および社会の基本的で重要な制定法を素材に、法に内在する「公正」という価値について触れながら、法の特徴や法的な考え方について理解を深め、リーガルマインドの養成を図ることを目標としています。 授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■キーワード：リーガルマインド、リーガルリテラシー、憲法、民法、刑法		
授業の趣旨	■副題 国家および社会の基本的な法について ■授業の目的 重要な制定法の基本的な内容を知ることを通じ、法理解を深めつつ法的思考の方法を学び、リ		

	ーガルマインドの養成・リーガルリテラシーの習得を目指します。 ■授業のポイント 1. 国家の基本法としての憲法の基本的な内容 2. 社会の基本法としての民法の基本的な内容 3. 刑事法の基本的な内容 4. 司法と法の解釈 5. 社会的課題と立法的な解決										
総合到達目標	■もっとも基本的で重要な制定法の基本的な内容について学び、法の基本的な知識・理解を身につけ、リーガルマインドを養成し、リーガルリテラシーを習得する。 ・日本国憲法の基本的な内容および関連する重要な判例について説明することができる（第2回～第6回） ・民法の基本的な考え方、契約・不法行為・家族法の基礎的な内容について説明することができる（第8回～第11回） ・刑事法の基本原理について理解し、犯罪と刑罰の基本的な内容および刑事手続の概要について説明することができる（第12回～第14回） ・裁判と法の解釈・適用について理解し、法的規準に基づく基本的な紛争解決の在り方について説明することができる。（第1回・第8回） ・社会的課題に対する立法的な対応について理解し、法と政策との密接な関係について説明することができる。（第15回）										
成績評価方法	■確認テスト3回（75%）：適用ループリック E1・H1・H2 （評価の観点）法律の基本的知識・理解についてチェックする。 （フィードバックの方法）授業の中で解説を行う。 ■リアクションペーパー5回（25%）：適用ループリック E1・D1 （評価の観点）授業参加度および授業内容の理解度をチェックする。 （フィードバックの方法）授業の中で解説を行う。										
履修条件	とくになし										
履修上の注意点	法律学の学修ですので、授業時に六法を持参してください。										
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td> ①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 シラバスに基づいて授業の概要および成績評価について説明します。また『六法』について解説し、法律の基礎知識についても触れておきます（E1）。 ③予習（120分） 事前にシラバスを一読し、『六法』を各自準備する。 ④復習（120分） 『六法』の読み方・引き方を復習する。 </td></tr> <tr> <td>2</td><td> ①授業テーマ 国家の基本法としての憲法 ②授業概要 国家統治の基本法が憲法です。国家法体系における憲法の位置づけ・性格、立憲主義について学ぶとともに、日本国憲法の制定とその基本原理を理解し（E1・D1）、憲法の構造的特徴について説明できるようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書2頁～13頁を読む。 ④復習（120分） 基本原理相互間の関係を整理する。 </td></tr> <tr> <td>3</td><td> ①授業テーマ 人権観念と憲法上の規定 ②授業概要 人権の歴史を辿り、人権観念の特徴と人権の展開を理解するとともに、日本国憲法における人権の保障について学び（E1・H1・H2・I1）、人権とは何かについて理解し、説明できるようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書14頁～31頁を読む。 ④復習（120分） 人権観念の特徴と人権の分類について整理する。 </td></tr> <tr> <td>4</td><td> ①授業テーマ 人権問題と憲法訴訟 ②授業概要 </td></tr> </tbody> </table>	回	内容	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 シラバスに基づいて授業の概要および成績評価について説明します。また『六法』について解説し、法律の基礎知識についても触れておきます（E1）。 ③予習（120分） 事前にシラバスを一読し、『六法』を各自準備する。 ④復習（120分） 『六法』の読み方・引き方を復習する。	2	①授業テーマ 国家の基本法としての憲法 ②授業概要 国家統治の基本法が憲法です。国家法体系における憲法の位置づけ・性格、立憲主義について学ぶとともに、日本国憲法の制定とその基本原理を理解し（E1・D1）、憲法の構造的特徴について説明できるようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書2頁～13頁を読む。 ④復習（120分） 基本原理相互間の関係を整理する。	3	①授業テーマ 人権観念と憲法上の規定 ②授業概要 人権の歴史を辿り、人権観念の特徴と人権の展開を理解するとともに、日本国憲法における人権の保障について学び（E1・H1・H2・I1）、人権とは何かについて理解し、説明できるようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書14頁～31頁を読む。 ④復習（120分） 人権観念の特徴と人権の分類について整理する。	4	①授業テーマ 人権問題と憲法訴訟 ②授業概要
回	内容										
1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 シラバスに基づいて授業の概要および成績評価について説明します。また『六法』について解説し、法律の基礎知識についても触れておきます（E1）。 ③予習（120分） 事前にシラバスを一読し、『六法』を各自準備する。 ④復習（120分） 『六法』の読み方・引き方を復習する。										
2	①授業テーマ 国家の基本法としての憲法 ②授業概要 国家統治の基本法が憲法です。国家法体系における憲法の位置づけ・性格、立憲主義について学ぶとともに、日本国憲法の制定とその基本原理を理解し（E1・D1）、憲法の構造的特徴について説明できるようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書2頁～13頁を読む。 ④復習（120分） 基本原理相互間の関係を整理する。										
3	①授業テーマ 人権観念と憲法上の規定 ②授業概要 人権の歴史を辿り、人権観念の特徴と人権の展開を理解するとともに、日本国憲法における人権の保障について学び（E1・H1・H2・I1）、人権とは何かについて理解し、説明できるようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書14頁～31頁を読む。 ④復習（120分） 人権観念の特徴と人権の分類について整理する。										
4	①授業テーマ 人権問題と憲法訴訟 ②授業概要										

	人権をめぐる具体的な紛争事件を取り上げて、憲法の観点からどのような法的問題として取り扱われ、裁判所が実際にどのような解釈適用を行っているのかを学び（E1・H1・H2・I1）、重要な憲法判例について理解し、説明することができるようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書31頁～81頁を読む。 ④復習（120分） 重要な判例の事案を整理し、その争点と判旨をまとめる。
5	①授業テーマ 国家統治の構造 ②授業概要 民主主義国家は国民主権原理に基づくと同時に、権力の濫用から国民の自由を守るために国家権力自体を分割し、チェック＆バランスを図る権力分立を採用しています。また日本国憲法は地方自治を保障し、国と地方との関係についても規律しています。日本国憲法が定めている立法、司法、行政の各機関の相互的な牽制の内容と地方自治の保障について学び（H1・H2・I1）、三権分立のしくみと地方自治について説明することができますようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書82頁～112頁を読む。 ④復習（120分） 三権分立および地方自治の保障の内容についてまとめる。
6	①授業テーマ 行政活動と法 ②授業概要 「法律による行政の原理」が支配する国家体制こそ法治国家です。国の行政権は憲法に基づき内閣に帰属しており、国の行政活動を遂行するために、法律に基づいて行政組織が設けられています。この国の基本的な行政組織の概要を理解するとともに、地方自治体の組織についても併せて概観し（E1・H1・H2・I1）、日本における行政組織の概要について説明できるとともに、行政をめぐる紛争が生じた場合の行政争訟のしくみについて理解し、説明できるようになります。＊確認テスト第1回（解答期間は1週間） ③予習（120分） 事前に教科書116頁～152頁を読む。 ④復習（120分） 行政組織の概要および行政紛争における行政上および司法上の救済手続きについてまとめる。
7	①授業テーマ 法に関する基礎知識 ②授業概要 これまでの憲法等に関する授業を踏まえながら、法に関する一般的な知識について整理するため、法の分類および法と裁判について学び（E1・I1）、法の基礎知識に基づいて法の分野および裁判制度・手続きについて説明することができるようになります。なお、授業時に確認テスト第1回の解説を行います。 ③予習（120分） 事前に教科書222頁～276頁を読む。 ④復習（120分） 公法と私法との区別、制定法の種類、裁判手続について整理しながらまとめる。
8	①授業テーマ 私人の権利義務と民法 ②授業概要 一般の人びと（私人）の権利義務を定めて、相互間の法律関係を基本的に規整しているのが民法です。国家の基本法が憲法であるとすれば、民法は社会の基本法といえるでしょう。そこで、民法の内容を概観し、その基本原則について学び（E1・I1）、私人相互の関係を規律する場合の基礎的な知識に基づいてその法律関係を適切に分析できるようになります。 ③予習（120分） 事前に教科書176頁～178頁を読む。 ④復習（120分） 民法の基本原則についてまとめる。
9	①授業テーマ 契約と法 ②授業概要 わたくしたちは、財やサービスを他人との取引を通じて入手しています。この取引関係を法的に見ると、「契約」ということになります。つまり、日常生活は契約によって

	成り立っているのです。そこで、契約について、その主体、客体となる財産、基本的な成立要件、法的効果を中心に基礎的な知識を学び(E1・D1)、契約を制度として説明することができるようになります。 ③予習(120分) 事前に教科書179頁～191頁を読む。 ④復習(120分) 契約の基本的な成立要件および債務不履行責任についてまとめる。
10	①授業テーマ 不法行為 ②授業概要 私人間の権利義務関係は、契約によって発生するばかりでなく、たとえば事故の場合にも被害者と加害者という当事者間で生じる場合があります。これを不法行為と呼んでいます。不法行為の成立要件を具備すれば、被害者には加害者に対する損害の賠償を請求する権利が認められるわけです。こうして被害者が被った損害の補填が図られます。この不法行為について基本的な知識を学び(E1・D1)、民事上の損害賠償責任について説明することができるようになります。 ③予習(120分) 事前に教科書192頁～198頁を読む。 ④復習(120分) 一般的な不法行為成立の要件および使用者・監督義務者の場合の要件についてまとめる。
11	①授業テーマ 家族と法 ②授業概要 民法は家族に関する規律を行っています。家族関係は夫婦と親子の二つの関係を軸に構築されており、民法もそれぞれの規整を図っています。また、死亡により家族間での財産の承継が問題となることから、民法には相続に関する規定も盛り込まれています。家族および相続に関する基本的な法知識を学び(E1・D1)、家族間の法律関係と相続について説明することができるようになります。＊確認テスト第2回（解答期間は1週間） ③予習(120分) 事前に教科書154頁～175頁を読む。 ④復習(120分) 婚姻と親子の法律関係と相続のルールについて整理する。
12	①授業テーマ 刑事法の意義と基本原則 ②授業概要 犯罪と刑罰に関連して、刑法・刑事訴訟法の基礎を学修します(E1)。刑事法の意義とその法律関係の特徴を踏まえたうえ、近代刑法の基本原則である罪刑法定主義、責任主義、さらに刑事手続の諸原則について学び、刑事法全体の基礎について学びます(D1)。この授業を通じて、刑事法の全体像について理解し、刑事法の特徴とその基礎となる基本的な考え方について説明することができるようになります。なお、授業時に確認テスト第2回の解説を行います。 ③予習(120分) 事前に教科書199～205頁、244～246頁を通読する。 ④復習(120分) 刑法の基本原則について確認し、それらが表れている規定について指摘する。
13	①授業テーマ 犯罪の一般的成立要件 ②授業概要 法律上の犯罪とは、「構成要件に該当する違法かつ有責な行為」と定義づけられています。これに基づき、行為とは何か、構成要件の諸要素、違法性が阻却される事情、責任が阻却される事情について、判例等を参照しながら学びます(E1・H1・H2)。この授業を通じて、法律（刑法）上の一般的な犯罪成立要件に即して、具体的な事実に対して犯罪の成否に関する基本的な説明を行うことができます。 ③予習(120分) 事前に教科書205頁～210頁を読む。 ④復習(120分) 授業で取り上げた事例について、犯罪の成否を確認する。
14	①授業テーマ 刑事手続の概要 ②授業概要 国家刑罰権を実現する手続について概観します(E1・D1)。刑事手続は、捜査機関による捜査と訴追後の公判の手続とに大別されます。それぞれの手続の概要を学ぶとともに

	に、重要な原則と課題について、判例も交えながら学びます(E1・H1・H2・I1)。この授業を通じて、刑事手続の流れと手続上の基本原則について説明することができるようになります。＊確認テスト第3回（解答期間は1週間） ③予習（120分） 事前に教科書247頁～255頁，62頁～68頁を読む。 ④復習（120分） 刑事法に関する授業全体の復習を各自で行う。
15	①授業テーマ 社会と法 ②授業概要 今日、社会状況の変化も著しく、社会におけるさまざまな課題が生じており、これに対応するための立法も盛んに行われています。このような社会状況の変化にともなう法的課題と立法の動向について学び(E1・H1・H2)，現代社会における法の変化について説明することができるようになります。なお、授業時に確認テスト第3回の解説を行います。 ③予習（120分） 授業で触れた最近の法改正についてチェックする。 ④復習（120分） 最近の法改正および今後の動向についてまとめる。
関連科目	憲法と人権(RMGT1311)，立憲主義と統治(RMGT1311)，民事法Ⅰ(RMGT2341)，民事法Ⅱ(RMGT2342)，民事法Ⅲ(RMGT2343)，犯罪と法Ⅰ(RMGT2331)，刑事司法手続Ⅰ(RMGT3421)，刑事司法手続Ⅱ(RMGT3424)
教科書	上野幸彦・古屋等『国家と社会の基本法 第5版』（成文堂・2023年）
参考書・参考URL	学修上、六法は必要ですので、各自できるだけ購入してください。 公務員試験等を目指す受講者は、判例情報が付いている『判例六法 令和5年版』（有斐閣）を推奨します。 とくに試験等を予定していない場合には、『ポケット六法 令和5年版』（有斐閣）を推奨します。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先メールアドレス：ueno.yukihiko@nihon-u.ac.jp ■オフィスアワー：月曜日および金曜日 12:10～13:00
研究比率	法学90%，危機管理学10%

